

「普及所の思い出、普及への想い」

琴浦町農業委員会会長 福田 昌治

鳥取県普及職員協議会創立70周年おめでとうございます。

日々、農業委員会の業務推進について所長をはじめ普及所には大変お世話になり感謝しております。現在、家業の酪農も規模拡大を進めており、そちらでも普及所にお世話になっているところです。家では高校、中学、保育園の4人の孫の成長が嬉しい毎日ですが、将来の後継者として育てて欲しいと願っているじいちゃんです。



思い起こせば、普及との最初の関わりは簿記指導だったと記憶しています。20代前半の頃、普及所の勉強会で指導を受けたのですが、変わった名前の元気な普及員がおられました。その普及員は現在の担い手機構上場理事長であり、この年になって仕事で関わるとは当時は思い及びませんでした。

他にも、普及員さんの熱心な指導のもと集落で取り組んだ再生紙マルチ栽培、たまたま嫁の親戚であった普及員さんの勧めで締結した家族経営協定などが印象に残っています。

そして、現在も農業委員会が遊休農地対策として取り組んでいる特産栗「ポロタン」の栽培でも普及所のお世話になっています。その甲斐あってH30年は9haに栽培面積も拡大し、販売面でも6次化による加工を進めており、引き続き支援をお願いしたいと思います。

さて、現在の農業を取り巻く状況は決して易しいものではありません。農家の高齢化に伴う耕作放棄地増加による農地の荒廃。種子法改正に伴う遺伝子組換え種子による食の安心・安全の危機。酪農部門では輸入拡大に伴う乳価下落による経営圧迫 等々、農家個人では解決できない問題が山積みです。国、県、市町村、農協、農家の皆が知恵を出し、声を出し、最善の策を講じていくことが必要だと考えています。

そういう状況の中、普及の仕事あり方も形が変わっていくのだろうと思います。少し前までは普及員から得る情報・技術は非常に重要なものでした。しかし、情報が溢れかえっているネット社会の今日、新しい情報・技術は容易に手に入るようになりました。もちろん現場での技術伝達は重要だと考えますが、これからの普及員に強く求められるのは農家の相談役として常に身近に寄り添って声を聞くこと、そして農家の声を行政へ伝えること、農家と一緒に解決策を考えることだと思います。なんだか、昔の普及員の姿を思い浮かべてしまうのですが、今一度、普及の原点に立ち返るということでしょうか。

農業委員会の会長として、一酪農家として、これからも農家に最も近い場所で常に寄り添って活動する普及に期待しています。